MJ進路通信

群馬県立前橋女子高等学校
進路指導部
令和4年5月19日（木）　第4号

さあ、1学期中間考査！

普段の学習が、受験学力の蓄積になる。定期考査は自身の学習進度のチェック、目標、そして受験学力の「入力」「学力定着」として位置づける。

１年生は前女に入って初の定期考査。不安の方が大きいかもしれませんが、ここは一度地に足をつけて、「せっかく勉強するならどう成果を出すか」を考えて、頭を整理して学習に望もう。

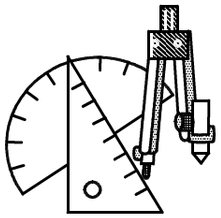
勉強のコツ

良い点を取るコツを教えましょう。勉強のコツです。それは、

「まずやること。」

そして**「わからないところをわかるように勉強する。わからないところを覚える。」**

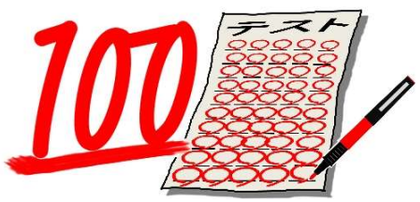
国語も、社会も、数学も、英語も、みんなそう。例えば、わかっている（覚えている）ところばかりを１時間勉強して、「勉強した～」っていうのは、自己満足。実はあまり身になっていない。わからないところを勉強して、自力でわからない場合は、



「わからないところを友達や先生に聞く。
聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」と申します。

職員室にいると、朝、昼休み、放課後と数多くの１年生が数学や英語の質問に来ています。「鉄は熱いうちに打て」の鉄則通り、授業でわからなかったところをわからないままにしないことが知識定着、積み重ねの一番の近道。考査一週間前から職員室は入室禁止になります。しかし、昼休みは入れます。朝、放課後も職員室にちょっと入って、先生を呼べば先生は職員室の外で教えてくれます。どんどん先生を利用しよう。

復習＝「受験レベル」知識の定着！



定期考査の「点を取る」ことだけを考えると、「一度おいしい」だけ。みんなは評定平均をとることも大事だけど、数年後の大学受験に向けての知識の蓄積が一番大事という考え方を持っていなければならない。前女の授業のレベルは大学受験で通用する学力を身に付けさせるレベル。定期考査を使って「完全に復習」し、大学受験に必要な基礎知識を定着させる。定着させるためには、数多く繰り返せばそれだけ知識の理解は深まる。だから、直前の一夜漬けではなく、数年後の自分を笑顔にするために定期考査に向けて何度も繰り返し、知識を深く深く定着させる。そういった考え方を持つべし。

評定平均をしっかり取ることは将来の可能性を一つ残すこと

「自分の将来の可能性を広げる、選択肢を多くする」ために定期考査を頑張るのです。「点を取らないと怒られるから」ではないのです。当然「テスト」は誰にとっても嫌なもの。でも、考え方を前向きに、「自分にとってプラスになるもの」と捉えられれば、なんとなくな頑張りから「一歩前へ」「前のめり」な踏ん張りができるはずです。それが、具体的には評定平均が４から５になる部分であったり、受かる大学が地方国公立大学から難関大学という差であったりするのです。

2, 3年生

「“自分はこのくらい”というバイアスがかかってしまっている可能性がある」

だから**「新しい学年になって初めての試験でそのバイアスをリセットして、自己新を目指す！」**

何回か定期考査を経験すると、自分の取る点数や順位がだいたいこのくらいというのが出てくる。そうすると。「自分はそのくらい」と考えが固定化されてしまう。そして、成績を上げようと努力しなくなってしまう。それを打破するきっかけが学年が変わって最初のテストである一学期中間考査。

3年生 5/28共通テスト模試

初の“共通テスト”の模擬試験。なんとなく受けるのではなく、テーマと目的を持って受ける。

①自己採点をしっかり→結果と自己採点の点数が同じになることが大事
②「得点」で見ていく→昨年は難化。共通テストの難易度がまだ測れないのが現状。現時点でどのくらい取れて何ができなかったかをしっかり分析し洗い出すことが重要。ここで課題がはっきり見つけられれば、本番は明るい。逆に、まだ受験学力が仕上がっていないのに、今回の模試ができなかっただけで落ち込んだり自信を失ってしまうのは「自滅」。今模試を受けた後の対応が合否の鍵！
③「時間」との勝負･･･特にリーディング、国語、数学
　　→「時間が足りなかった」という人が出てくるはず
④「問題形式」との相性を確認
⑤受験校の書き方で注意する点
□私大は「共通テスト利用」のコードを書く→本番の私大「共通テスト利用」をイメージするため（私立専願者で早慶志望者は、個別方式のコードを書く）
□私大の「共通テスト利用」で、国公立型の人は基本「３教科型」ではなく、「４教科型以上」のコードを書く（ただし、国公立志望で３教科が得意な人は「３教科型」でも良い）。
□志望校記入は全部埋める